

市議会全員協議会（令和５年１０月１６日（月））における基本構想案及び前期基本計画素案への意見等とその対応

- １ 事 項 総合計画２０３１基本構想案及び前期基本計画素案について
 ２ 発言者数 ８人
 ３ 内 容 以下のとおり

No.	資料・ページ等	意見等の概要	当日の回答	修正の有無	対応
１	参考資料１－１／意見公募手続の結果一覧	①パブリックコメントの対応について、鈴鹿市総合計画審議会では、基本構想素案における修正点のみの説明であった。パブリックコメントの趣旨を考えれば、一つひとつの意見への対応を議論すべきではないか。 ②また、基本計画についてはどうするのか。例えば、鈴鹿市総合計画審議会では、基本施策６３４において、職員のＤＸ人材育成について書き込んでほしいという意見があったが、現時点で明確に記載されていないなど見受けられるので、しっかり対応してほしい。	①鈴鹿市総合計画審議会委員には、事前に資料を送付して確認いただいている。また、審議会においては、資料としてお示しするとともに素案に反映したところを説明することで対応できている。 ②前期基本計画素案についても、いただいた御意見に対する市として対応を整理した上で、同様に審議会へ報告する予定をしている。前期基本計画素案は、行政が主体的に行っていく計画であり、委員へ説明を行い、委員から意見があれば対応を検討していきたい。	無	①当日の回答のとおり。 ②当日の回答のとおり。また、鈴鹿市総合計画審議会では、法務能力や政策形成能力、職務執行能力などの能力育成について触れており、このような人材育成の取組に、デジタル人材の育成を含めています。
２	資料２／前期基本計画素案	①成果指標の書き方について、基本施策３３１の交通事故件数と基本施策	①交通事故件数は、交通安全計画に減らしていく目標として示している。	無	①当日の回答のとおり

	54, 55ページ	332の刑法犯認知件数は、本当は「0」を目指さないといけない。 ②数値を下げることを目標とするものは、「以下」、「未満」、「前年度比マイナス何%」などのような書き方をするか、注釈を記載するなどしないといけないのではないか。ある程度の件数があることが前提になっている。	「0」を目標にできれば一番良いが、様々な施策により、現状から目標としてここまで減らしていきたいという考えで設定している。 ②目標値は、記載の数値より以上や以下という考えで記載をしておりますので、これらの表示については、表現の仕方を含め検討したい。	有	②数値を下げることを目標とする指標について、目標値に「以下」と追記することで区別できるようにしました。
3	資料2／前期基本計画素案 8ページ	①基本施策111の「主な取組」の1番目に、子ども条例の制定についての記載があるが、成果指標が地域子育て支援拠点施設利用者数になっており、適合していないように感じる。子ども条例を制定することで、子どもの権利を守ることや子どもの考えを施策等に反映することが大事だと思うが、成果指標への反映することはないのか。	①主な取組の最初に子ども条例の制定について記載したのは、この4年間で特に注力していくことを示した。成果指標との関連は、子どもや子育てにやさしい地域社会づくりを推進するに当たって、育児に不安感を持つ保護者に対して、まずは子育て環境の整備も含めた環境の充実を図り、不安感の解消を図っていくことが重要であり、このような考えのもと、地域子育て支援拠点施設利用者数を成果指標として採用した。	無	①当日の回答のとおり

		②この成果指標自体を否定するものではないが、それなりの取組が見えてこないのが問題なので検討してほしい。	②取組内容の記載については検討する。		②成果指標につながる取組内容については、次期推進プランでの検討課題とし、その後の評価・検証をしっかりと行うことで、子ども施策の充実を図っていきます。
4	資料1／基本構想案 6ページ、資料2／前期基本計画素案 全体指標・各満足度指数	基本構想で全体指標の現状値や満足度指数が空白になっているが、議案のときには数値が入るのか。	現在、市民アンケートを行っているところであり、議案として提出する際には数値を入れる。	無	当日の回答のとおり
5	資料2／前期基本計画素案 全体	基本計画における取組内容は多岐に渡っていて、目標値も一つの基本施策に多くある。代表的なものを一つだけ示すのも分かるが、目標値が全体を表していないことが問題である。成果指標の取り方自体がこれでいいのかというものもある。	全体の考え方として、基本施策ごとに現状・課題を踏まえに目的を達成するために取り組んでいくものである。目的を達成するためには様々な取組があり、全てを指標にすることは進捗管理等も煩雑になり、合理的ではないと考える。もっとも相応しいと思われる成果指標を設定しており、これは全て、基本施策における取組内容と直接的或いは間接的に関わるものと考えている。	無	当日の回答のとおり
6	資料2／前期基本計画素案 21ページ	①基本施策133の成果指標は、「図書貸出カードの登録者」になっているが、サービスの指標は一人当たりの貸出冊数が適切ではないか。貸し出すこ	①図書館等サービスによる読書活動の充実の取組については、これまでは一人当たりの貸出冊数にしており、確かにこの指標は全国的に設定してい	無	当日の回答のとおり

		とが主な業務で、全国的にも貸出冊数にしているところが多い。登録者は一旦作るとほかのカードのように更新しないので、実際の来館者が増えることが図書の貸出につながるものではないと考えるがいかがか。 ②図書貸出カードは一回発行したら、ずっと手元にあり、その方がどんどん利用していただくかは別である。	る自治体が多い。しかし、指標設定の研修等で課題も示されており、本市においては市民のうち約2割の方しか図書を借りていないため、一人当たりの貸出冊数を指標にするのはどうかという考え方もある。そのため、図書館を利用していただく方を増やしていくことで、まずは現状の約2割から増やしていくことを指標として設定した。 ②図書貸出カードの登録者については、カウントの仕方によって継続利用がどれほどのスパンであるかなどを含め、運用上で考えていきたい。全国的に進められている電子図書館については、インターネットで貸出は可能だが、その場合でも図書カードの登録は必要とする動きもあるため、その点も考慮しながら進めていきたい。		
7	資料2 / 前期基本計画素案 31ページ	①基本施策212の成果指標は、「国民健康保険事業の支出に対する収入の割合」になっているが、お金の問題ではなく、いつでも医療が受けられる	①基本施策212について、主な取組は、国民健康保険や医療費助成に関することなどになっており、「みんなの目標」に資する成果を測るものとして	無	当日の回答のとおり

		ことが重要である。財政は後から付いてくるものであり、お金が足らないと負担を増やすという議論になる。代表的な指標であるとしても、この指標は相応しくないのではないか。 ②収支バランスを前面に出すのではなく、今でも負担が重い方から見て、安心して医療受けられる、つまりお金の心配しなくても良いというようにしてほしい。	設定している。主な取組である国民健康保険事業を安定的に運用していることを測る指標として採用している。単に財政的なものを捉えているということではなく、市民の皆様がいつでも安心して医療を受けていただくために、国保財政を安定させることで指標として設定したものである。ほかにも様々な取組を行っていくため、そのようなデータも補完的に捉えながら基本施策を進めていきたい。 ②負担の軽減については、医療費の利用等を見据え、適正な基準について引き続き検討したい。		
8	資料2／前期基本計画素案 全体	①前期基本計画素案の中に、「地域」や「地域づくり協議会」といった言葉が使われている。総合計画2023においては、各地域で、地域計画を策定し、運営しており、これが総合計画2031につながる訳であるが、これらの言葉を使う際に、現在の地域づくり	①改めて熟度の調査ということでは実施していないが、策定の段階から、各地域づくり協議会と意見交換したり、その結果、まとまった案をフィードバックしたりしている。熟度の認識は、定量的に把握することは難しい面があるため、今後、次期総合計画を発	無	当日の回答のとおり

		協議会の状況をしっかりと把握しているのか。市として総合計画を進めていくに当たって、各地域において、どのくらいの熟度があって、どのような特長があるのかなどを調査した上で策定しているのか。 ②各地域がどのような状況かを把握しないと、地域づくり協議会、市民の方の負担になる。地域づくり協議会が持続可能かどうかということがなければ、計画期間中に困ってしまい、また負担が増えてしまう。それは行政として避けるべきである。また、各地域の熱量や熟度の違いによって、例えば、福祉分野の取組が弱いとなると、そこのところを行政としてしっかり進めていかなければならない。このような地域との調整について、総合計画の進行管理をしていく中で、地域づくりがしっかり進んでいるかどうかをチェックしたり、レベル調整をしていくのはどこになるのか。	信じていしながら、様々な業務の中で、地域の方々と話し合いをしていきたい。 ②総合計画2031の施行管理は、基本施策の成果指標における達成度について行政評価を行った上で、外部評価を受けていくこととしている。それぞれの業務において、地域の熟度も異なるため、各業務で対応・調整するものであり、一律的に管理して各地域の熟度に応じた対応をすることは現時点では考えていない。		
9	資料2／前期基本	基本施策124「家庭・地域ととも	部活動の地域移行については、部活	無	地域とは、小学校区、中学校区を中心と

	計画素案 15ページ	に子どもの成長を考える教育環境づくりの推進」について、ここで記載している「地域」は、どこを指しているのか。横串を通して地域を考えていくところはどこなのかをはっきりさせないといけない。休日の部活動の地域移行について記載があるが、これで本当に新しいことに取り組めていけるのか。部活動地域移行となると、地域の文化スポーツ活動全般に中学校の先生が入っていくという観点になる。地域にも支えてもらわないといけないが、このようなことを議論されているのか。	動地域移行準備室を設けて、検討している途中であり、全国的にも、どのように改革していくのか問題となっている。地域とともに考えていかなければならない課題として捉えており、議論もこれから進めていきたいと考えている。		した、子ども達の暮らしに関わりのある場所を指しています。 部活動について、少子化の影響を受け、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒のスポーツ・文化芸術活動の場として、新たに地域クラブ活動を整備する必要があります。 このため、現在休日に活動している学校部活動の代表教員や競技団体等の関係者との意見交換を通して、休日の学校部活動地域移行に向けて調整を図っていく。 また、今年度、年3回の協議会を開催し、様々な立場から御意見をいただき、今後の取組に反映させていきます。
10	参考資料2-2基本施策一覧	①基本施策一覧の項目名が「人口抑止」、「人口適応」となっているが、これの意味合いは何か。人口抑止は、人口減少抑止ではないか。 ②大事な項目が抜けているのは困る。資料の訂正をお願いします。	①前期基本計画の2ページにも記載しているが、「人口減少抑止策」と「人口減少社会適応策」のことである。省略して記載している。 ②資料については、修正する。	有	当日の回答のとおり
11	資料2／前期基本計画素案 13ページ	①基本施策122「自己肯定感を高め、多様性を認め合う子どもの育成」の成果指標に違和感がある。「人が困	①成果指標については検討したが、多様性等も含めた中で、この成果指標が適しているものとして設定した。現在	①有	①児童生徒が自己肯定感を高めることは、自分だけでなく他者も大切な存在であると気づき、お互いを認め合うことができるこ

	同 39 ページ	っているときに進んで助けている」と回答した児童生徒の割合をアンケートでとるということであるが、多様性には当てはまるかもしれないが、自己肯定感とずれていないか。	策定中の鈴鹿市教育振興基本計画では、より詳細な成果指標の設定を検討している。		とにつながるため、成果指標を「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙において『自分にはよいところがあると思う』と回答した児童生徒の割合」に変更します。
	同 93 ページ	②基本施策 2 3 3「高齢者の生活支援の充実」の成果指標の設定理由に、地域で自立した高齢者が増えるということを表すと記載があるが、様々な理由で特養などに入りたいけど入れない人もいると思うが、そういった方々が指標に含まれてしまうのではないか。	②基本施策 2 3 3 は、高齢化が進む中で、地域包括ケアシステムの推進をはじめ、介護等が必要な状態の方を住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしていただけることを目的として推進していくものである。在宅高齢者の方の日常生活の支援を行うための指標として、要介護認定を受けた方のうち、在宅生活をしている方の割合を成果指標としている。施設利用をされたい方のサービスについては、積極的に対応をしていかなければならない問題であるが、施策の中で、在宅生活ができる方の割合を増やしていくことも目標として、様々な生活支援を行っていくために設定している。	②無	②当日の回答のとおり
		③基本施策 5 3 1「すずか産農林水産	③すずか産農林水産物の消費及び販	③有	③みどりの食料システム戦略については、

		物の消費及び販路の拡大」について、主な取組に、みどりの食料システム戦略についての記載がないが、このことについてどう考えているのか。	路の拡大に向けて、どのような施策を展開していくのかということを主な取組に記載をしている。みどりの食料システム戦略について記載がないので取り組んでいかないということではなく、全てを記載できないという中で整理をしている。必要であれば記載についても検討を行う。		本基本施策の推進プランである「次期鈴鹿市地産地消推進計画」において示し取組を推進していくが、意見をふまえ、主な取組の最下部の項目について次のとおり修正します。 「安全・安心な農林水産物の供給に向けた環境保全の取組と衛生管理を促進します。」
12	意見公募手続の結果一覧	意見公募手続において、「総合計画2023でも要望したが、基本構想だけでなく基本計画も議決案件にしてほしい」という意見がある。基本計画に位置付けられた基本施策を具現化するために、いろいろな事業や予算については議会で審議するわけであるが、基本施策を具現化する上で、基本計画は非常に重要であるため、議決案件の対象とすべきと考えている。このことについて、鈴鹿市総合計画審議会での意見があったか。 意見として、基本計画に沿っていろいろな施策を展開していくことになるため、今後、基本計画を議決事項とすることも検討してほしい。	基本計画を議決案件にすることについては、鈴鹿市総合計画審議会では意見はなかった。	無	基本計画を議決対象とすることは、事前統制の意味でも意義あることですが、一方で行政運営の柔軟性や迅速性を拘束するなど、計画の硬直化が懸念されることから、議決の範囲を基本構想のみとしています。 基本計画は、行政が責任を持って取組を進める行政経営計画という位置付けであり、引き続き、意見反映を行いながら、策定を進めています。

13	資料2／前期基本 計画素案	①基本施策311の成果指標を市公式LINE災害情報登録者数について、現状値の約6,000人を4年間で12,000人とすることを目標とした根拠は。目標値は低くないか。 ②それでも目標値が低いのではないか。LINEの機能は危機管理だけではない。LINEの情報発信の内容が周知されていない。カードレールの破損や道路陥没などについて市へ報告できる便利なツールであるものの知らない方が多いので、登録者が少ない。災害が身近に感じられる中、関係者だけではなく、横のつながりで登録者数を増やしていくことも図ってほしい。人口19万人のほとんどの方がスマートフォンを使えると思うので、便利さを周知するなど、登録者を増やすような取組をお願いしたい。	①参考資料2－1目標値設定シートの27ページに考え方を示している。2025年度までにメルモニ利用者数の1万人を目標とした。2026年度以降は、10%増となる1,000人ずつの増加を目標とした。 ②LINE災害情報登録者数の増加については、各種啓発を行う中で登録をお願いしているので、今後も継続し、登録者数の増加に努めたい。	無	当日の回答のとおり
----	------------------	---	---	---	-----------